

日本史の中の

栄区



今の栄区

ちょっと前の栄区

かなり昔の栄区

むかしむかしの栄区

旧石器時代

今から3万年前～

3万年前にもう人類が横浜にいたんだ

日本列島にはいつごろから人類が住むようになったのでしょうか？…また、よくわかっていないのが実情です。

横浜市内では、関東ローム層の中

からナイフ形の石器が見つかった明^{みょう}神台遺跡^{じんたいいせき}（保土ケ谷区）が今のところ最も古い時代の遺跡です。これによって横浜での人類の存在は、3万

年前より古い時期には始まっていたことが明らかになりました。

縄文時代

今から1万年前～

もっと海が広がって、陸地はせまかったよ

紀元前1万年ごろ…氷河期からの気温上昇で北極や南極の氷が溶けはじめ、海岸線が上昇して谷の奥深くまで海水が侵入^{しんにゆう}していきました。この海岸が縄文土器で象徴される縄文人の生活の舞台でした。

このころの相模湾は、今と違って藤沢の大部分を水底にして遠くはいりこみ、湾内には鎌倉・戸塚・藤沢という3つの支^し丘^{きゅう}が突き出していました。そ

してその間には、東から大船・藤沢・大^{おお}庭^ばと呼ばれる入江が並び、中でも大船入江は、幅800m、奥行10kmにも及ぶ大きな入江だったようです。これらの丘陵^{きゅうりゅう}の台地上に、縄文人が住んでいました。

早期にあたる撚糸文土器^{よりいともん}（笠間町松ヶ丘遺跡ほかで発見）をはじめに晩期の土器（公田町桂台ほかで発見）まで、区内のいたるところで発見され

ています。特に晩期の土器は桂台から出土した土器を基準として、かつて「桂台式土器」の名で呼ばれていました（現在は「桂台式」の呼称は使われなくなっています）。この土器は、有名な亀ヶ岡式土器（青森県）と区別することが難しいほど、東北文化の影響を受けています。

弥生時代

紀元前1000年～

川の近くから弥生土器が次々と見つかったりよ

3000年ほど前、中国大陸や朝鮮半島から稲作技術と金属器が伝えられました…弥生時代のはじまりです。

縄文時代には住居が台地の奥にもありましたが、弥生時代になって水田稲作が始まると村々が川の近くの台地に集中しました。川の流れる低地で稲作を行い、台地の畑では雑穀が作られましたが、弓や網・釣具による狩りや漁も引き続きおこなわれていましたが、人々の生活は大きく変わりました。収穫を蓄えることにより、人々の間には次第に「力の差」が生まれ、各地に集落ができ、やがて3世紀中ごろには、女王卑弥呼を擁する

邪馬台国があったと伝えられています。

また、弥生土器がようやく広がりだしたのは、紀元前後だったといわれています。この時代の土器は、柏尾川

上流の西側大地とその対岸（戸塚区柏尾町）、さらに独川が柏尾川に合流する飯島町殿谷および笠間町打越あたりから田立、公田町の台・稲荷にかけて多く分布しています。



笠間中央公園から弥生時代の住居あとが14軒見つかりました。

古墳時代 / 飛鳥時代

約300年ごろ～710年

栄区の横穴墓には他に類のないものがあるよ

大和政権と結びつく豪族たちによって、小山のような壮大な古墳（古い大規模なお墓のこと）がつくられるようになったのは、3世紀後半のこと

と考えられています。

後には火葬が広がり、古墳も小型化して横穴式古墳も多くつくられました。



（写真は宮ノ前横穴墓群）
棺室をもつ、栄区独自の横穴墓です。

小菅ヶ谷の七石山、鍛冶ヶ谷市民の森内、公田の長沼家裏には、約7世紀ごろから奈良時代にかけてつくられた横穴墓群が、今もその一部を残しています。独川流域の横穴墓はかつて「鍛冶ヶ谷式」と呼ばれ、玄室（棺をおさめる部分）の奥に、更に奥室あるいは棺室とでもいうべき部屋をつくっていることが特徴です。このようなつくりの横穴墓は全国でもこの独川流域に集中して分布しています。

その少しあとに製鉄作業がおこなわれていたことを示す、貴重な上郷深田遺跡がつけられました。

奈良時代

710～794年

栄区には豊かな水田が広がっていたよ

中国の隋や唐にならって、律令（現在の法律にあたるもの）政治をめざす大和朝廷（国家）は、和銅3年（710）、都を奈良の平城京におき、中央が地方を支配する制度がはじまりました。

土地をすべて国のものとして、農民が耕作する「国郡里（郷）の制」は、大宝律令ができた8世紀初め（701年）のころに確立しました。当時、相模国には8郡がおかれ、栄・戸塚区などは

鎌倉郡に属していました。また、鎌倉郡には7郷がありましたが、栄区は尺度郷のあたりと考えられています（詳しくは76ページ）。当時の尺度郷は豊かな水田地帯だったようです。

平安時代 794~1192年

世が乱れ、自衛のための武士団「鎌倉党」が生まれたよ

「平安」という名とは逆に、律令制度がくずれて世の中は不安定な状態となり、特に地方の政治は乱れ、各地に盗賊がはびこるというありさまとなりました。

そのため地方の有力な領主たちは、名目上、土地を中央政府の有力者に贈ってその勢力下においてもらい(荘園制度)、武装をして自らの土地は自分の手で守ることにしました。このようにして武士が生まれ、より有力な武士を求めて棟梁と仰ぎ、その棟梁

を中心として団結した武士団が結成されていきました。

「山内莊秋庭(葉)郷内信濃村」(円覚寺文書)、「山内本郷」(證菩提寺文書)などの古い文書によって推定すると、栄区はだいたい山内莊という荘園にあたり、「鎌倉党」という武士団に属していたようです。

長尾台にある御霊神社です。(詳しくは22ページ)



鎌倉時代 1192~1333年

栄区には鎌倉時代の由緒ある文化財がたくさんあるよ

平氏を倒した源頼朝は、建久3年(1192)に征夷大將軍に任ぜられ、鎌倉幕府をひらいて武家政治をはじめました。

奈良時代から盛んになった仏教は

多くの宗派にわかれ、関東にも多くのお寺がたてられました。

栄区内には、浄土宗、浄土真宗、日蓮宗、曹洞宗、臨済宗、真言宗などいろいろな宗派のお寺があります。とく

に證菩提寺は源頼朝ゆかりの寺です。また崖面に穿たれた洞に供養塔などをおさめた「やぐら」が、鎌倉に近い栄区にも分布しています。

※鎌倉幕府の成立年代は、守護・地頭を設置した1185年とする説もあります。

室町時代/安土・桃山時代 1334~1603年 栄区を支配していた小田原北条氏は有名な武将だよ

鎌倉幕府は元弘3年(1333)に滅亡し、足利尊氏を中心とする室町幕府が成立しました。尊氏は、関東が武家政権の根拠地であった重要性を考え、「鎌倉府」と呼ばれる支所をおきましたが、やがて武将が争い乱れる戦国時代に突入していきます。

このころ、このあたり一帯は、上杉謙信や武田信玄と並び称される、小田原北条氏の支配下におかれていました。永正9年(1512)、戦略上の拠点で食糧の補給にも十分であるという理由から、玉縄城とその防衛のための「出城」として、長尾砦が長尾氏の屋敷あと地に築られました。三代目の氏康は、収入の安定をはかるため

に土地を調査し、面積・生産高・耕作者などを記入した土地台帳をつくる検地をおこなっています。豊臣秀吉の「太閤検地」より40年早い検地でした。



高台にある長尾砦あとです。

今でも見晴らしがよく、砦としてつくられたのもわかりますね。

右の写真は長尾砦の三角点(一番高い場所)です。



天正18年(1590)豊臣秀吉は小田原城を攻め落とし、その領地(関東地方の大部分)を徳川家康に与えました。栄区内やその周辺に残る家康の“鷹狩り伝説”は、このころの彼の領内見聞を物語っていると思われ、長慶寺や長光寺には、家康にゆかりの品物が残っています。

慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いで豊臣方を滅ぼした徳川家康は、政權を握ると、江戸(東京)に幕府をひらき、街道の整備や参勤交代の確立など、

その後250年を超える平和な時代の基礎を築きました。

街道には宿場がおかれ、付近の住民には伝馬制度が課されました。この制度は、公用旅行や荷物運送を利用するときに人や馬を提供するもので、東海道の戸塚宿で不足があるときには、上倉田・下倉田・長沼が定助郷村となり、それでも不足のときは、以遠の小菅ヶ谷・田谷・鍛冶ヶ谷・飯島・長尾・笠間・中野などが大助郷役をつとめ、村高100石につき馬2匹を基準として提供してい

ました。

また、東海道の道路掃除と、往還(街道)筋の両側に植えられた並木を維持するために往還掃除役という仕事(負担)が各村に割りあてられ、1村あたりの割りあて距離は30間余り(約50m位)でした。

そのころの民衆の心を伝える石仏が栄区内にも多くたてられています。みなさんのまわりにもあるので、探してみしょう。

庶民の信仰と石仏群

石仏には、3匹の猿が彫られていることが多い庚申塔、村境や道端にたつて悪疫などの侵入を防ぎ、また男女二像がつくられることから「縁結びの神」にもなる道祖神や、馬の供養のための馬頭観音などがあり、栄区内でも数多くみかけられます。

石仏に刻まれた名字に対する民衆の思いとは

これらの石造物の下部や側面にはつくった人の名字が刻まれています。江戸時代の庶民は名字を名乗ることが禁じられていました。当時の庶民たちは、自分たちの名字を堂々と名乗れない制度への抵抗と不満を解決する知恵として、信仰にこよせて、墓や各種の公共性のある石造物に自分の姓名を刻むことを編みだしました。



三匹の猿が彫られている
渡戸の庚申塔



男女二像が彫られている
広地稲荷内の双体道祖神

江戸時代(幕末のころ)

外国船の警備にてんやわんやの大騒ぎ

江戸中期以降に外国船の来航が多くなり、幕府は江戸湾防備を重要視するようになりました。

文化7年(1810)、三浦半島沿岸の警備が会津藩に命じられました。翌8年(1811)には鎌倉郡・三浦郡の村々が会津藩領に支配がえとなり、この地域の村々が江戸湾防備に組みこまれていきました。以後、外国船渡来のた

びごとに動員され、村々には経済的にも重い負担となりました。

会津藩は観音崎に陣屋を設け、各村々は陣屋にいる郡奉行と代官の支配を受けました。異国船渡来の際の動員方式により、この地域の村々は大船村からの「触れつぎ」を受けて、それぞれの駆けつけ人数が決められました。

その後、川越藩、熊本藩、佐倉藩が警備を担当し、その間、海防に従事する各村々のうちにも交代がありましたが、アメリカが派遣した東インド洋司令長官・ペリーの2回目の来航で交渉に押され、安政元年(1854)3月3日、横浜村で日米和親条約が調印され、ついに日本は開国しました。

アメリカ総領事ハリスは、幕府に対して強い態度で要求し、安政5年（1858）6月に日米修好通商条約を結び貿易を約束しました。続いて同じ内容の条約をオランダ・ロシア・イギリス・フランスと結び、翌6年（1859）6月2日、横浜が開港しました。

主な輸出品は生糸や茶で、外国人商人に対抗し中居屋重兵衛や原善三郎、茂木惣兵衛など多くの日本人商人が活躍しましたが、物が外国に輸出されて、品不足で物価があがるなど、庶民の苦勞もありました。

外国人は「居留地」と呼ばれてい

た現在の関内地区に住んで、営業していました。周囲10里（40km）四方が「遊歩区域」として認められていたため、多摩川（川崎）から酒匂川（小田原）までのあいだにある、戸塚・鎌倉にも当時の訪問記が残っています。

明治時代 1868～

現在の栄区の原型は明治22年に生まれたんだよ

徳川幕府が倒れ、日本は新しい時代をむかえました。

政府は「富国強兵」「殖産興業」を二つの柱にし、アジアで最初の憲法を定めて国会を開くなど、西洋文明を吸収して近代化をはかりました。日清、日露戦争を経て日本の産業は飛躍的に発展していきました。

明治になって神奈川県（県）が発足しましたが、栄区の村々はすぐに編入されたわけではありませんでした。幕府直轄地となって伊豆・葦山の代官・江川太郎左衛門の支配を受けるなど、各地区は葦山県、千葉の生実県、下野国烏山県などを経て神奈川県に編入されました。

現在の栄区域は、明治22年（1889）の「市町村制の施行」により誕生した鎌倉郡本郷村、豊田村、長尾村（のちに小雀を分離して豊田村と合併）です。横浜南農協豊田支所の位置にあった豊田村役場と、本郷石橋付近にあった本郷村役場の二つがおもな行政機関でした。

鉄道開通と大船駅

大船駅ができたのは軍事上の目的でしたが、庶民には鎌倉観光を身近にしてくれた駅になりました

戸塚や藤沢とくらべ、人口の少ない大船に駅ができたのは、軍事上の目的からでした。

「富国強兵」を目標にしていた日本にとって、陸海軍の拡大充実は重要課題。東京から多くの軍事施設があった横須賀への陸路交通が必須だったのです。

当初は東海道線の戸塚駅に結び予定でしたが、地形や距離を考えると工事費が余計にかさむため、鎌倉から大船へ結ぶ線に変更となりました。

昭和22年ごろの大船駅。

駅にいる4人は今の鎌倉女子大（当時京浜女子大）の学生ではないでしょうか。



横須賀線が開通した翌月、新橋から神戸までの東海道線が開通しました。初日の運行表によると、新橋～神戸間の急行は上り下り各一本しかありませんでしたが、大船駅は当時の東海道線の98駅中7駅しかない急行停車駅で、いかに重要視されていたかがわかります。

またこのころは、大船から神戸まで急行で18時間30分かかりました。

横須賀行きは乗換えと
呼ばれて降るる
大船の 次は
鎌倉鶴ヶ岡
源氏の昔や 尋ねみん

「鉄道唱歌」から

明治21年（1888）に着工し、一年後に横須賀と大船を結ぶ横須賀線16.2kmが開通しました。

大正時代 1912~1926年 民衆が力を持ってきたこの時代、「古き良き日本」が栄区にあったよ

この時代は、政治の改革・改良を求める「大正デモクラシー」と呼ばれる民主運動が進みました。また、ラジオ、雑誌、映画、スポーツなどの大衆文化が普及しました。

大正12年(1923)9月、関東地方を

おそった大地震は横浜にも大きな被害をもたらしました。

日本の古き良き時代ともいえる、里の景色・人情・質素な生活など、栄区内の「原風景」があったころです。大正9年(1920)に電気がつくまでは、

石油ランプの生活でした。

昭和のはじまり 1926~1940年 昭和14年、今の栄区が含まれた戸塚区が誕生したよ

横浜市は、明治22年(1889)に市制を施行して誕生しましたが、栄区のあたりは依然として鎌倉郡のままでした。その後何回かの市域の拡張を経て、昭和14年(1939)4月、鎌倉郡の北部を編入して現在の市域が確定し、戸塚区(瀬谷区や栄区を含む)が誕生しました。神奈川県鎌倉郡豊田村大字飯島は、神奈川県横浜市戸塚区飯島町と呼ばれるようになりました。

現在の桂郵便局の奥にはいったあたりにあった本郷出張所。(もとの本郷村役場)鎌倉郡から横浜市になったときの村長は中央のひげをたくわえた佐相村長です。



第二次世界大戦のころ 1941~1945年 第一海軍燃料廠ができ、そこでは10代の少年も働いたんだ

日清・日露戦争の勝利の結果、日本は中国大陸に利権を持つ外国との対立が深くなっていきました。解決は軍事力、戦争で決める時代となり、戦争は国民生活を圧迫し、民衆の生活は次第に窮屈になってきました。

物資の不足により、木炭バス、とうも

ろこしの毛のタバコ、ボール紙底の運動靴、米飯にかわる麺や芋など、生活のあらゆる分野に代用品が使われました。また、物資の供給に切符制が導入され、少ない物資が平等に手にはいるよう、切符がないとお金があっても物が買えないようになってしまいました。

マッチ・さとうをはじめ、木炭・パン・菓子・味噌から衣料に至るまで、さまざまな生活必需品の規制が厳しくなりました。人々の苦しい生活は、アメリカとの戦争がはじまったころから敗戦後の食糧難のころまで続きました。

空襲が激しくなると、横浜市では初等科3年生から6年生の学童集団

疎開がはじまりました。

対象者のうち半数近くはすでに親戚などに預けられ、参加した児童は県内の足柄上・下・中郡、津久井郡などで暮らしました。しかし約7000人の児童は市内に残留していました。一方、中等学校以上の学生は、男女を問わず勤労動員として工場などで働き、その割合は従業員数の50%を超える場合もありました。

本郷村の小菅ヶ谷に第一海軍燃料廠の実験部が完成したのは、昭和13年(1938)のことでした。海軍戦闘機だけでなく、国内用の燃料と潤滑油、石油液化などの研究実験や松根油(松の木の花が原料の油)の製造などを進めていました。戦争末期には、10代前半の少年も含め約2000人が働き、そこには技術学校や病院(現在の栄共済病院)の設備もありました。

出征兵士を村の人みんなで見送りました



日本の発展と安定の時代 1945年～

終戦から22年、大船PXがなくなってようやく開発ができたよ

昭和20年(1945)8月15日、ラジオから「(日本が降伏する条件を表明した)ポツダム宣言」を受けいれるとの放送が流れ、国民は日本の敗戦を知りました。以後6年間にわたって、日本が初めて経験する外国の占領がおこなわれました。港湾都市横浜はそれによって大きな影響を受けましたが、栄区も例外ではありませんでした。

小菅ヶ谷の第一海軍燃料廠は、終戦後大部分の施設がアメリカ軍に使用され、大船PX(軍の売店)の倉庫となりました。現在の本郷中学校の正面付近に入口があり、住民は立ち入りが禁止されていました。接收地は本郷地区の中心に位置していたため、

地域開発を進めるうえでの大きな障害となっていました。終戦から22年も経った42年(1967)、住民の返還運動のすえに大船PXは全面返還され、公

共の利用が認められました。そのあと地が、現在の本郷台駅、区役所などの公共施設、学校、市営団地をはじめとした各種施設に生まれかわっています。

昭和36(1961)年ごろの様子。塀の向こうはアメリカ、住民は立入禁止でした。



高度成長 1960年代ごろ～

経済はどんどん成長したけど、いろんな問題も生まれたよ

栄区の開発は京浜工業地帯のベッドタウン化が中心でした。公団団地や飯島団地、県公社桂台団地、市営小菅ヶ谷住宅など、続々と建設されていく中、昭和48年(1973)には国鉄(現JR)

本郷台駅が開業しました。

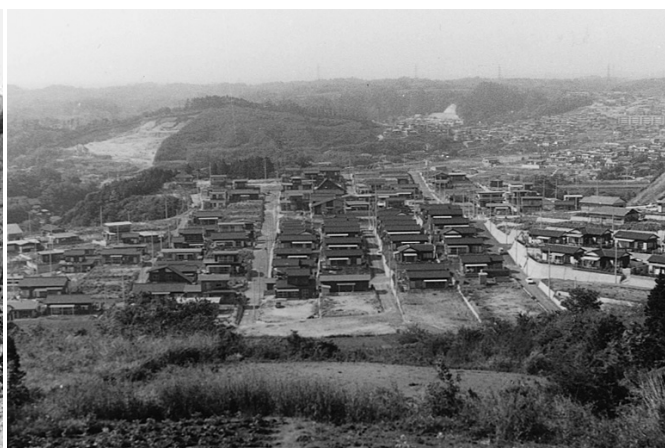
その他にも本郷地区センターの開設や駅前広場の整備など、《地域の中心》の町並みが形成されました。また、開発の一方では、河川汚濁などの

環境問題や公害問題に悩まされるようになりました。道路や交通機関の整備など、現在に至る課題も残っています。

昭和41(1966)年当時の湘南上郷団地の造成工事の様子



昭和43(1968)年フローラ桂台からの湘南上郷団地の様子



ここ栄区でも工場が次々とでき、工業製品がいきおいよくつくられていきました。それまでの農地は、団地や工業地にかわり、栄区の風景も一変しました。

昭和48年(1973)につくられた、公団本郷台駅前住宅(写真は現在のもの)



栄区の誕生

1986年～

共に大きく栄える。栄区にはみんなで大きくなろうね、そんな願いがこめられているよ

昭和61年（1986）11月3日、戸塚区が三分割され、新しい戸塚区、泉区、そして私たちの住む栄区が生まれました。

区名は、市内在住、在学、在勤者を対象に一般公募しました。7040件の応募の中から「栄」が選ばれた理由は、

- ①本郷・豊田両地区の共栄を期し大きく栄えていく願いがこめられている
- ②「栄」という字が明るくはなやかなイメージを持つ
- ③応募数では4位で幅広い支持を受けている、などでした。

また、栄区役所の場所は、市立本郷台小学校のあと地に決定しました。

本郷台を区を中心と位置づけ、平成6年（1994）に策定された「区心部文化ゾーン魅力アップ基本構想」のもと、栄区の「顔」づくりが進められています。



駅前にある時計塔

本郷台の街のいろいろな表情



独川沿いの花壇に植えてある花

このオブジェは周りの木を植えたときの大きさです

大独橋



区役所の裏から写した独川の風景

駅前の区心部文化ゾーンにある案内板

区役所玄関前にあるオブジェです。
この下にはタイムカプセルが…。
50年後に掘りだす予定です

栄区役所



栄区やその周辺にかかわる年表

※1 丸子連多麻呂の歌

なに は づ
難波津に
よそ
装ひ装ひて
け ふ
今日の日や
まか
出でて罷らむ
見る母なしに

意味●難波津(大阪港)でだんだん用意を整えて 今日こそは出発することか 見送る母もなくて

さきもり
防人とは北九州の防衛にあたった兵士たちのことで、東国の農民たちが選ばれて行っていました。

万葉集の中には「防人の歌」があり、そのほとんどは家族と離ればなれになる悲しさや、無事を祈る気持ちを読んだものとなっています。

※2 山内首藤

律令制度が崩れて、生まれた私有地を荘園といいます。栄区のあたりは山内荘で、山内首藤氏はその領主でした。小菅ヶ谷の春日神社をたてたともいわれています。

※3 北条早雲

上杉謙信や武田信玄と並び称されるほどの有力な戦国大名、北条氏の初代当主です。鎌倉幕府の執権・北条氏と区別するため「小田原北条氏」とも呼ばれています。

旧石器時代	約3.5万年前	横浜市域が陸化し、後期旧石器時代がはじまる。
縄文時代	約1万年前 紀元前3500ごろ	最終氷期が終わり、温暖化が進む。横浜市に縄文人が暮らす。(多くの遺跡が分布) 栄区にも縄文人。(笠間・公田・田谷・長尾台・上郷町などに縄文の遺跡)
弥生時代	紀元前200	各地に農耕集落が形成される。 (笠間・公田・田谷・小菅ヶ谷・飯島町など)
古墳時代	7世紀ごろ～	独川の流域に横穴墓群
奈良時代		独川の流域に製鉄遺跡(上郷深田遺跡) 上郷猿田遺跡に奈良朝期の住居あと。
	710 和銅3年	このころ、中の坪(小菅ヶ谷)、柳の坪(上郷)、坪入・榎坪(田谷)ができる。
	735 天平7年	東大寺の正倉院文書に「相模国鎌倉郡尺度郷」の記録。
	755 天平勝宝7年	『万葉集』に相模国鎌倉郡出身の防人・丸子連多麻呂の歌 ^{※1}
平安時代	1038 長暦2年	山内首藤 ^{※2} の祖・通家が死す。この頃山ノ内荘が成立したといわれる。
	1083 永保3年	「後三年の役」で鎌倉権五郎景正が活躍。
	1180 治承4年	源頼朝が「石橋山の戦い」で敗れる。→佐奈田与一の奮戦。
鎌倉時代	1197 建久8年	源頼朝、佐奈田与一の菩提寺として證菩提寺をたてたと伝わる。
	1215 建保3年	三代将軍・源実朝が證菩提寺を参詣。
	1224 元仁元年	鎌倉で疫病が流行。疫病退散祈願の「靈所七瀬祓」が独川でおこなわれた。
	1235 貞永元年	能満寺(現 正安寺)に親鸞が泊まる。(伝)
	1235 嘉禎元年	執権・北条泰時の娘の小菅ヶ谷殿が本郷新阿弥陀堂をたてる。
	1333 元弘3年	鎌倉幕府の滅亡。→上郷の光明寺が兵火により炎上。(伝)
	1334 建武元年	足利直義が新阿弥陀堂に、領地などを保証する書状(安堵状)を与える。
	1335 建武2年	證菩提寺文書のなかに、「子ノ神」「白山堂」の名がみえる。
室町時代	1338 延元3 暦応元年	足利尊氏が征夷大將軍になり、室町幕府をひらく。
	1353 正平8 文和2年	持阿上人が法安寺(笠間町)をひらく。
	1469 文明元年	大誓寺の仏像が、弘円によってつくられる。
	1512 永正9年	北条早雲 ^{※3} が玉縄城を攻略する。長尾砦は出城として築かれた。
	1542 天文11年	鎌倉郡で、北条氏康の検地がおこなわれる。
	1569 永禄12年	甲斐国の武田信玄が北条領国に攻めこむ。 →浄土真宗の光明寺や長光寺などが弾圧を受けた。
	1590 天正18年	豊臣秀吉が北条氏を滅ぼし、天下統一。

江戸時代	1603	慶長 8 年	徳川家康が江戸幕府をひらく。
	1627	寛永 4 年	上総国生実藩の森川氏が笠間を領有。
	1649	慶安 2 年	徳川家光、光明寺および長慶寺に朱印状を出し、領有する土地の石高を安堵する。 小菅ヶ谷村・宿の谷に、田中氏が地蔵石仏をつくる。
	1668	寛文 8 年	鍛冶ヶ谷八幡宮の阿弥陀庚申摺がつくられる。
	1694	元禄 7 年	この頃「鎌倉郡札所 ^{*4} めぐり」がはじまる。 15番・法安寺、16番・永林寺、17番・坂中山光明寺、29番・玉泉寺、31番・勝福寺(正福寺)
	1781	天明元年	本郷の大水害。笠間村田立地区の被害が大きかった。
	1810	文化 7 年	会津藩が三浦半島の警備につき、この地域の村々も人足などを出した。
	1841	天保12年	上之の坂中山観音堂に平尾桃岩齋 ^{*5} が寺子屋をひらく。
	1853	嘉永 6 年	ペリーが浦賀(横須賀)に来航。
	1859	安政 6 年	横浜開港(6月2日)
近代	1873	明治 6 年	「学制」が施行され、田谷学舎を皮切りに、この地域にも学校がつくられる。
	1889	明治22年	市制・町村制施行により、鎌倉郡本郷村、豊田村、長尾村が誕生する。 大船駅が新設され、横須賀線が開通する。
	1914	大正 3 年	狹川に昇龍橋がかかる。(市内最古の石橋)
	1915	大正 4 年	村の編成がえにより、豊田および長尾村が豊田村に、長尾村の小雀は大正村に編入。 現栄区の範囲は豊田・本郷の2村となる。
	1919	大正 8 年	豊田村、本郷村に電灯がつく。
	1923	大正12年	関東大震災。豊田村、本郷村も大きな被害を受ける。
	1927	昭和 2 年	横浜市区制施行。鶴見・神奈川・中・保土ヶ谷・磯子の5区が誕生
	1938	昭和13年	第一海軍燃料廠が小菅ヶ谷に設置される。
	1939	昭和14年	戸塚区、港北区が誕生。このあたりは、神奈川県横浜市戸塚区となる。
	1941	昭和16年	第二次世界大戦(太平洋戦争)がはじまる。
	1943	昭和18年	現在の環状4号線、六浦～笠間十字路が開通。
	1945	昭和20年	第二次世界大戦(太平洋戦争)が終わる。
	1947	昭和22年	戸塚区役所本郷地区事務所開設。昭和24年に本郷出張所となる。
	1952	昭和27年	第一次海軍燃料廠跡を駐留軍が接収、「大船 PX」を設置。豊田吏員派出所を開設。
	1967	昭和42年	米軍「大船 PX」を全面返還。 元大橋1丁目の開発許可により、大規模住宅開発が本格化。
	1969	昭和44年	笠間大橋が完成し、環状4号線が開通。
	1972	昭和47年	飯島市民の森が横浜市内第1号の「市民の森」として開園する。
	1973	昭和48年	JR 根岸線が大船まで開通し、本郷台駅が開業する。
	1986	昭和61年	戸塚区が分区し、栄区が誕生 ^{*6} する。《11月3日》
	1987	昭和62年	上郷深田で古代製鉄所遺跡が発見される。
	1991	平成 3 年	「区の花」をキクに決定 ^{*7}
	1997	平成 9 年	桂町戸塚遠藤線の一部が開通。(長光寺から環状3号線)
	1999	平成11年	環状3号線が長沼まで開通。
	2006	平成18年	大船駅笠間口開設。小学校統廃合により、上郷小学校と庄戸小学校が誕生。 鎌倉街道(横浜鎌倉線)全線完成。
	2008	平成20年	桂町戸塚遠藤線の一部(環状3号線から戸塚区舞岡町)が開通。
	2013	平成25年	本郷台駅前広場「里帰りの桜」植樹。 長野県栄村との友好交流協定を締結。
	2015	平成27年	青森県南部町との友好交流協定を締結。
	2017	平成29年	「区の木」をサクラとカツラに決定。 山形県高畠町との友好交流宣言を発表。
	2026	令和 8 年	区制 40 周年

※4 鎌倉郡(三十三観音)札所めぐり

三十三カ所の観音堂にお礼を納めると観音様に守ってもらえるという信仰が広まり、鎌倉にある観音堂に一から三十三までの番号がつけられました。

※5 平尾桃岩齋

諸国を遊学していた国学者の桃岩齋が、栄区に「耕堂学舎」という寺子屋をつくりました。「桃岩さん」と慕われていたが、江戸幕府と対立して獄死しました。

※6 栄区誕生

戸塚区は人口の増加が進み、昭和55年には40万人を突破しました。そのため、行政サービスの地域格差や地域活動の支障などが危惧され、分区への動きが活発化しました。

※7 区の花「キク」制定

区制5周年を記念して一般募集をおこない、1323票、99種類の花が候補に寄せられました。その中で応募数が最も多く、知名度が高くて親しみやすいとの理由で「キク」が選ばれました。

